LIBRA SQUARE
リブラ・スクエア

book 最近，おもしろかった本

『鼻行類　新しく発見された哺乳類の構造と生活』

ハラルト・シュテュンプケ 著　日高敏隆，羽田節子 訳　平凡社ライブラリー　840円（税込）

精密な図版とともにイマジネーションの世界へ

会員のみなさんは，「鼻行類」という哺乳類がかつてこの地球上に存在していたことをご存知であろうか？「鼻行類」は，1941年に南洋の日本軍捕虜収容所から脱走した捕虜がたまたま上陸したハイアイアイ群島で発見した奇跡の哺乳類であり，「鼻行類」について記述した数少ない文献が本書である。

この「鼻行類」という耳慣れない哺乳類は，特殊・特異に発達した「鼻」を使って，歩行したり（！），ぴょんぴょんと跳ねたり（！），昆虫などを捕食したり（！）するという生態をもっていた。その生活の場も地表であったり，樹上であったり，地中であったりと多種多様に進化し，分化していた。

鼻行類の分類については学者による対立があるが，本書の著者ハラルト・シュテュンプケは「単鼻類」と「多鼻類」の亜目に分け，さらに14科189種が知られているとする。そのうちの一部を紹介すれば，「トビハナアルキ」「ダンボハナアルキ」「モグラハナアルキ」「ラッパハナアルキ」エトセトラ，エトセトラ。

例えば，「単鼻類」に属し，地表に暮らす「トビハナアルキ」は，後肢はすでに退化してしまっているが，針金のように伸びた1本の「鼻」を使って後ろ向きに跳躍し，発達した尾を使って餌を捕まえる。同じく「単鼻類」に属する「ダンボハナアルキ」は，蝶の羽のように発達した耳を使って後ろ向きに飛翔し，地上に降りるときは1本の「鼻」をいわば1本脚のように用いて支えとする。また，「多鼻類」のうちの「ナゾベーム」は，4つの鼻（故に「多鼻類」）を使って地表を歩行し，餌である植物を探す。

このように全く独自にと言うか特異に発達した哺乳類なので，哺乳類として独自の目（もく）が与えられている。

と，言われても「鼻行類」が如何なる「鼻」を持っていたのかイメージしづらい点が多々あると思う。これについては本書の精密かつ学術的な図版を参照していただくのが最適である（本書の表紙の図版は，「ランモドキ」である。その特徴ある「鼻」に注目していただきたい）。

なお，冒頭で「かつて」と書き，文中でも各所で過去形を使っていることには訳がある。本書で詳述されている鼻行類は，上述したように，1941年にハイアイアイ群島で発見されたが，東西の冷戦のまっさなかにおいて，某国の核実験によりその生息地であるハイアイアイ群島ごと消滅してしまった。この核実験による絶滅は，奇跡の「鼻行類」発見よりわずか20年後のことである。ハイアイアイ群島には，研究機関があり，各種標本も採集されていたとのことであるが，全て核実験により消失し，今では誠に残念ながら1体の標本さえ残っていないという。

さて，ここまで読んでいただいた方々のなかには，そんな哺乳類が本当にいたのか，という疑問を持たれた方が少なからずいらっしゃることと思う。

その疑問に答えるのが本書である。現在，日本において，この貴重かつ幻の哺乳類についての著作で入手できるものは，ハラルト・シュテュンプケの著作による本書のみであろう。

些末な文言や数字にこだわらざるを得ない弁護士業務の合間に，エスプリにあふれた本書を読んでいただき，しばしイマジネーションの世界に浸っていただけたらと思う。図版を見るだけでもお勧めである。

（会員　入澤 武久）

cinema

心に残る映画

『踊る大捜査線 THE MOVIE』

1998年／日本／本広克行監督作品

「警察＝大組織」が抱える問題点を鋭く指摘

『踊る大捜査線 THE MOVIE』
DVD
発売元：フジテレビジョン
販売元：ポニーキャニオン
税込価格：5,040円

『踊る大捜査線THE MOVIE』は，お台場近くの湾岸署を舞台とし，織田裕二扮する青島俊作刑事らが事件を解決していくというものではある。しかし，事件の謎解きやアクションを主軸とした従来の刑事映画とは一線を画する。本作品では警視庁を「本店」，所轄の湾岸署を「支店」と会社組織に置き換えて，事勿れ主義やセクショナリズムといった大組織の抱える問題点を鋭く指摘する。そして，主役の青島刑事だけでなく，その他の登場人物の人間性も丁寧に描写しているところが，全く新しいタイプの刑事映画といわれる所以である。反面，訴えたいことをストレートに出してしまうのではなく，ネタをこれでもかと盛り込み，笑いのオブラートで包んでいるが故に，かえって見る者の心に訴えかけてしまうというのもこの映画の特筆すべき点である。

さて，本作品においては，「本店の副社長」すなわち，副総監が誘拐され，所轄である湾岸署には，本店から大量の捜査官が送り込まれてくる。本店の捜査官たちは現場を知らないために，なかなか解決の糸口を見付けられない。そんな中，独自に捜査をしていた青島刑事が犯人の目星をつけ，現場に踏み込もうとするが，本店の幹部たちは，自分たちの手柄にしようと，現場を無視して本店の誰に犯人を逮捕させるのか本店の会議室でもめている。そんな中，青島刑事は「事件は会議室で起きてるんじゃない。現場で起きてるんだ！」と叫び，本店を無視して現場に踏み込むが，犯人の1人の母親が，逮捕を阻止しようと青島刑事をナイフで刺し，重傷を負わせてしまう。

大組織のもつ問題点，ネット社会の危うさ，母子関係のあり方を鋭く指摘した作品ではあるが，青島刑事とキャリア官僚室井慎次（柳葉敏郎）との友情，青島刑事を暖かく見守るベテラン刑事の和久平八郎（いかりや長介）の渋い演技が加わることにより，味わい深いものになっている。

（会員　中井 陽子）

アテネオリンピック銅メダリスト

女子ソフトボール 宇津木ジャパン来る！

第48回東京弁護士会大運動会

11月3日の文化の日に文京区本駒込の六義公園運動場で第48回東京弁護士会大運動会が開催された。爽やかな秋晴れのもと，会員，家族，事務職員などが15のプログラムを共に競い分かち合い楽しみながら終日を過ごした。

早出賞，各競技の賞品，豪華景品の福引など工夫を凝らした賞品が用意された。

大運動会には，「オリンピックおじさん」こと山田直稔さんがやってきた。東京オリンピック以来40年間，私設応援団長として自費でオリンピックに参加している人である。今年で78歳の年を感じさせない元気で大運動会を盛り上げてくれた。

さらに，この夏日本をわかせたアテネオリンピック銅メダリストの全日本女子ソフトボールチーム・宇津木ジャパンもやってきた。宇津木妙子監督，上野由岐子投手，乾絵美捕手が中国戦の完全試合のピッチングを目の前で披露してくれた。代わる代わるバッターボックスにたった参加者からは当然のこと，会場からも溜息が漏れた。アテネの風が運動場にも吹き荒れた1日でもあった。

＊表紙裏グラビア参照

左から乾捕手，宇津木監督，山田さん，上野投手

上野由岐子投手　乾絵美捕手